

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	佐賀市立久保泉小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・令和5年度の共通評価項目及び独自評価項目については、心の教育の1項目、健康・体づくりの1項目、地域連携の1項目でおおむね達成の結果、それ以外の項目では十分達成であった。職員の取組が徐々に成果として表れ、意識の向上とともに成果が表れてきている。 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、学校の取組を保護者や地域の方々へたより等でお知らせして、日々の児童の学習や生活の様子を見ていただく機会を増やすことができた。しかし、保護者アンケートなどには、学校の取組や児童の様子が「よく分からない」といった回答があり、課題となっている。 ・「学力向上」「心の教育」「望ましい生活習慣形成」には、さらに、家庭や地域と連携して取組を進め改善を図らなければならない。
------------------	--

2 学校教育目標	夢に向かって 笑顔で学び合う 子どもの育成 児 かしい子（自ら学び考える子、他者と協働し追究する子、豊かに表現する子） 童 やさしい子（思いやりのある子、協働して取り組む子、地域を大切にする子） 像 たくましい子（粘り強く取り組む子、進んで挨拶ができる子、外で元気に遊ぶ子）
----------	---

3 本年度の重点目標	【雄飛学園「めざす15歳の姿」】 基礎学力を身に付け、自分の進路目標に向かって真剣に努力する。 倫理観、社会常識を身に付け、正しい判断力をもち行動する。 ふるさとに誇りと愛着をもち、社会の一員として自立しようとする。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		評価	意見や提言
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	○学習のきまりを身に付け、実践する教育活動	○「学び方について」の学習に関する4項目を守って学習することができたと回答した児童が85%以上。 ○「まなざし週間」での学習の目標を達成できたと回答した児童が80%以上。	・「学び方について」の指導を粘り強く行う。 ・「まなざし週間」の趣旨を啓発する。 ・家庭学習時間の目安を学年の実態に応じて示す。	B	・「まなざし週間」での学習の目標については、すべての学年で平日の家庭学習時間の目安を達成できている。 ・保護者からの意見として、「身に付いた学習習慣の継続性が低い」旨の指摘があった。家庭への趣旨の啓発を継続する必要がある。	B	・「学習のきまりを意識して学習に取り組むことができている」と回答した児童が93%である。学習規律を意識して学習に臨む意識を高めることができている。 ・「まなざし週間」後、家庭学習の習慣がついていると自覚している児童が82%である。中間目標同様に、全ての学年で平日の家庭学習時間の目安を達成できていたことから、各学年で適切な量の家庭学習課題を出すことができていると言える。 ・学習時間や家庭での学習の取り組み方などについて、学校だよりや学級通信等で共有することができた。	A	・「学習のきまり」について継続した指導が行われていると感じました。 ・がんばっている児童を認め、やる気を育てる工夫が感じられました。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「ぼかぼか言葉」を使っていると回答した児童が85%以上。 ○友達には誰とでも分け隔てなく話したり関わったりしていると回答した児童が85%以上。	・人権・同和教育の視点に立った授業を実施する。 ・全校や学年グループ単位で参加体験型の人権教室・集会を年間4回実施する。	B	・「友達の気持ちを考えて、思いやりのある『ぼかぼか言葉』を使っている」と回答した児童は95%、「悲しい思いをしている友達や困っている友達にやさしくしています。」と回答した児童は97%。エンカウンターを楽しみにしている児童が多い。 ・人権教室を計画的に実施し、友達への理解を促すことができたが、友達を傷付けてしまう事案もまだ見受けられる。	A	・「友達の気持ちを考えて、思いやりのある『ぼかぼか言葉』を使っている。」と回答した児童は95%、「悲しい思いをしている友達や困っている友達に優しくしています。」と回答した児童は100%。 ・全学級、授業参観にふれあい道徳を実施した。 ・人権教室・集会、エンカウンターを計画的に実施することができた。 ・アンケート結果からも分かるように、学校生活の中で、意識して思いやりの心を持って友達と接していると答えた児童が増加した。次年度も、引き続き、計画的に道徳の授業や人権教室・集会などを実施することが大切だと考えられる。	B	・先生方には、褒めて育てる指導を徹底してほしい。先生方の褒める姿勢が、児童の豊かな心を育むことにつながっていくと思います。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見、早期対応に向けて組織的な取組みができていると回答した教員が90%以上。	・いじめの早期発見、早期対応のための職員研修を実施する。 ・なかよしアンケートやいじめアンケートの結果を全職員で共有し、児童の実態を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・いじめを覚知したら、いじめ防止対策委員会を開き、情報を共有し対応する。	B	・毎月、児童支援会議を行い、いじめの早期発見、早期対応に努めている。 ・毎月のなかよしアンケートやいじめアンケートの結果を全職員で共有した。 ・いじめを覚知した際に、早期に情報を共有し、ポスターの撤去、落書きの修正などの対応を行った。また対象児童の見守りを強化している。	B	・いじめに向けた早期発見・早期対応に向けた組織的な取組ができたという教職員は88%だった。1学期末の結果と比べると8%増加しているため、継続していじめの早期発見・早期対応を心がけたい。 ・児童に対してなかよしアンケートを4・9・10・1月に実施した。保護者に対して11月にいじめアンケートを実施した。毎月の児童支援会議において、アンケート結果や問題行動、教育相談等の事案を全職員で共有している。 ・年に2回、朝の時間等に担任と子供が1対1で面談する時間をとって、児童理解に努めている。	A	・早期発見・早期対応のために担任や担任以外の教職員の努力が感じられました。 ・今後、多忙だとは思いますが、専門家や学校外の人材を活用した未然防止への取組も充実させてほしい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童が80%以上。 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童が80%以上。	・様々な機会に教員が意図的に「出番・役割・称賛・承認」を与え児童の自己肯定感を高める。 ・キャリアパスポート等を活用し、毎学期のめあてを設定する。学期の中間・終盤に振り返りを行い、児童自身の成長を確かめさせる。	B	・学校生活アンケートの結果では、「自分の夢やめあてをもって取り組んでいる。」と回答した児童は89%であった。今後も児童が活躍できる場を多く設定していきたい。 ・キャリアパスポートを活用しながら、どの学年も毎学期ごとにめあてを設定し、教室掲示を行っている。学期に数回、振り返りを行い、児童自身の成長を確かめさせる予定である。	A	・「自分の夢やめあてをもって取り組んでいる。」と回答した児童が91%であった。保護者アンケートの「学校は、子どもに夢や目標をもたせて出番・役割を与え、取り組んだことをほめ認める活動を行っていると思いますか。」が87%を占めた。 ・高学年では、委員会活動やたてわり班のリーダーとして、自分の役割を果たそうと頑張る姿がたくさん見られた。 ・様々な行事や学級活動において、児童が活躍できる場を数多く設定し、全体で振り返りを行った。児童自身が自分の成長や学級全体の成長を感じ、自信をもつことができた。	A	・少年の主張大会での子ども達の素直な主張には心打たれました。 ・集会での振り返り(感想交流)で発言する児童が多く、素晴らしいと思いました。 ・児童同士が生き生きと交流する活動の充実を今後も期待しています。
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○基本的な生活習慣「早ね早起き」「朝ごはん」ができていると回答した児童が85%以上。 ○「まなざし週間」での生活の目標を達成できたと回答した児童が85%以上。	・日々の健康観察で「早ね早起き」や「朝食の喫食」を確認し意識させる。 ・「まなざし週間」に基本的な生活習慣をチェックする項目を設定し、家庭でも児童の生活習慣を振り返る機会を設け、改善につなげる。	B	・「まなざしカード」の集計で、「早ね早起き」「朝ごはん」「身だしなみ」ができている(だいたいできていて)と回答した児童は88%、保護者が91%であり、基本的な生活習慣形成への意識は見られた。 ・特に高学年の「就寝時間」や「テレビ・ゲームの時間が守れているか。」に改善点が見られた。学校と家庭の連携を密にしながら、今後、児童がよりよい生活を送れるように対策を講じていく。	B	・「まなざしカード」の集計で、「早ね早起き」「朝ごはん」「身だしなみ」ができている(だいたいできていて)と回答した児童は87%、保護者が91%であり、基本的な生活習慣形成への意識は見られた。 ・望ましい生活習慣の形成を期待して、スマホやゲームの約束について、各家庭の取組を共有することができるようにした。「まなざし週間」を終えても生活習慣への意識が継続できるように学級通信等を通じて家庭へ啓発することができた。	B
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守。	・年間の業務を見通し、繁忙期の業務の協働体制・データの共有を進め、時間外在校等時間を短縮する。 ・定時退勤日には、出勤時に退勤予定時刻を示し、効率よく業務を進める意識を高める。	B	・時間外在校等時間は、4月の平均が44時間30分、6月の平均が35時間26分と少しずつではあるが短縮できている。 ・管理職等の退勤時刻を1週間分提示したり、定時退勤日を週案やボードで知らせたりしているが、仕事が残っていることを理由に、時間外に残る職員がいる。優先順位を考え、時間外の勤務を減らす意識改革が必要である。	B	・時間外在校等時間は、10・11月の平均は、37時間を超えていた。しかし、12月以降は、平均が20時間台になり、少しずつ短縮できている。 ・全職員の退勤予定時刻を掲示することで、時間外在校時間を短縮する意識を高めようとしている。業務の優先順位を考えたり、思い切った業務の削減を踏み切ったりする意識への変革が必要である。	B	・業務が多過ぎていろいろ大変かとは思いますが、「人を育てる」ことに喜びと誇りをもってがんばってほしい。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の更なる向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した教員が85%以上。	・児童支援会議を毎月実施し、支援が必要な児童の共通理解と支援の充実を図る。 ・特別支援教育の職員研修を計画的に実施し、職員一人一人の専門的理解を深める。	B	・毎月の児童支援会議の中で、支援が必要な児童の共通理解を図ることはできている。 ・職員研修以外でも、教育センターや教育委員会、教育事務所の研修に自主的に参加し、職員一人一人の専門的理解を深めているところである。	B	・児童支援会議で、児童の実態や対応について共通理解し、その時々に応じた適切な支援をすることができた。 ・「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答した教員は73%であった。「特別支援教育的な配慮を心掛けている」と回答した教員は93%であることから、ある程度の専門性は身に付けているが、更なる向上のために、研修の場を設定する必要がある。	A	・十分な研修が行われていると思います。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別活動	○児童の自信を高めることができる話合い活動の充実	○学級会の話合い活動を肯定的に感じた児童が80%以上。 ○児童が自信をもって自分の思いや考えを表出できるような手立てを行ったと回答した教員が80%以上。	・特別活動の校内研究を一層充実させ、相互に研究授業を参観し、指導方法の工夫・改善に努める。 ・構成的グループエンカウンター（SGE）を行い、児童の人間関係づくりを支援する。	B	・実態調査アンケートでは、「自分の考えを伝えることができるか。」に肯定的な回答が72%だった。授業を相互参観し、児童の自信を高める手立てや「学級の宝」の活用などを協議し、指導方法の工夫、改善に努める。 ・実態調査アンケートでは、「自分の考えを伝えることは好きか」に肯定的な回答が61%だった。児童の意見に「批判や指摘をされることが嫌だから」との記述が多かった。SGEの役割、効果を児童に伝達した上で、SGEを定期的に継続し、自分と異なる様々な意見を受け入れることができる学級の雰囲気づくりの支援を行う。	A	・実態調査アンケートでは、「自分の考えを伝えることができるか」に肯定的な回答が84%だった。教室内に実践の記録をまとめた「学級の宝」の掲示や、ICTを活用した発表の工夫など、児童が自分の考えを伝えやすい環境づくり、指導方法の工夫、改善を継続的に行った。 ・実態調査アンケートでは、「自分の考えを伝えることは好きか」に肯定的な回答が63%だった。批判や指摘を嫌う意見はあるものの、SGEを継続して行ったことで、前回の結果に比べ、「自分の意見が、いいねと言われてうれしかったから」や「みんなに考えを知ってほしい」といった前向きな記述が増えた。	A	・児童が自分の思いをしっかりと述べられるように成長していることを集会での発言から感じました。 ・低学年の町探検や九九の支援時にも、思いや願いを自信を持って発言できる児童が増えてきていると感じました。
◎地域連携	◎ふるさとのよさに気付き、愛着の深化 ◎創立150周年行事への参画意識の向上	◎地域の「人、もの、こと」に対する関心が高まり、地域を再発見したと回答する児童が85%以上。 ◎地域の「人、もの、こと」に関わる活動を進めることができたと回答する教員が85%以上。	・総合的な学習の時間のねらいを職員全体で共有し、ふるさとに根ざした学習活動を展開する。 ・学習や行事に地域の人が積極的に参画できる計画を立てる。運営協議会の委員と話し合う場をもち、情報を共有しながら内容を吟味し、実践する。	B	・ふるさとに根ざした学習活動が展開できるように、職員には情報提供を行っている。 ・地域の人材を、多くの教科や行事で活用できるように、PTA役員や学校運営協議会の委員と、積極的に情報交換を行っている。	A	・学校評価アンケートにおいて、「地域の学習で「人」「もの」「こと」が分かってきています」に肯定的な回答をした児童が92%だった。ふるさとに根ざした学習活動の展開により、児童の意識を高めることができた。 ・職員の学校評価アンケートにおいて「地域や保護者の協力を得ながら、子どもたちが様々な活動に取り組む指導を行っています」に肯定的な回答をした職員が93%だった。地域の人材を活用できる環境が整っている。	B	・感染症予防措置を考慮する必要がなくなり、地域行事に児童も保護者もとてもよく参加できている。

5 総合評価・次年度への展望	●…果共通 ○…学校独自 ●…高を高める教育 ・本年度の共通評価項目及び独自評価項目については、おおむね達成、または、十分達成の結果を得ることができた。 ・次年度は、創立150周年記念行事を予定している。この行事に向けて、児童の出番・役割・承認を行いながら、児童自らが企画・運営に参画できるようにしていくことで、学校の取組や児童の様子を地域へ周知できるように努めたい。 ・職員の取組が徐々に成果として表れ、意識の向上とともに成果が表れてきている。「望ましい生活習慣形成」には、さらに、家庭や地域と連携して取組を進め改善を図ってきたい。
----------------	--